



牧場から望む樺現山



週一回実施している国際交流会風景

南ゆき自治振興会は、遠くは大山まで眺望できる樺現山の懷に広がり、国道18号線沿いの有元班と栗肉用牛改良センターを含む高水池班から成る戸数六十三戸の小さな自治振興会です。

冬はスキー客、夏はトレッキングへと向かう車が早朝から行き交う国道と、実は豊松境の山中に古代ロマンを秘めて眠る馬塚古墳とに挟まれたこの地域は、昔から畜産が盛んで、興の種畜場から輩出した「豊萬号」の名はよく知られており、後にはこんにやく試験場も置かれ、神石こんにやくの盛運に大きく寄与しました。そういう地理的にも歴史的にも恵まれた地域にありながら、現在、少子高齢化が進み、若い層の減少、高齢化率の上昇は他地域同様に地域の活気をそく原因となっています。

こうした現状を踏まえ、本会は週一回、外国人の指導者を招き英会話練習を行いながら、若い方も国際交流を図っています。こうした活動の中で、これまで別の行政区で進めていた行事や仕組みを徐々に統一し、一つの振興会としての一体感を醸成していくことに力を入れています。連日、元気にグートボールの腕を磨くお年寄りの方々に励まされながら、お互いが歳とった時、「住んでいて良かった」と言い合えるコミュニティづくりを手を携えていきたいと思っています。



南自治振興会

南自治振興会は、昭和三十一年（一九五七年）当時七十四世帯、四五二名であった人口も今では実質三十五世帯七十名まで減少、この傾向は今後も止まる気配がありません。さらに、高齢化率八十二パーセント、今年末には三分の一の人が八十歳以上という超高齢化地域になります。しかし、地域内は、塚が峠の雲海、大樫の木と雷荒神、石面刻字、江戸の辻堂と五輪臺といった景勝地にも恵まれ、広域農産や福折川橋の開通により訪れる人々も多くなり、こうした人達との交わりが地域の人々の心を和ませています。訪れてくれる人がもっと多くなるように、昨年は道案内標識を増設し、今年は景勝地の説明看板の建替えを計画しています。

地域の面積も狭く人口も少ないですが、昔から住民のまとまりがよく、「ふれあい運動会」「美化運動」「ふれあい区民の集い」「サロ」等への参加はきわめて積極的で、地域の活性化につながっています。若い人たも少なく目新しい生き残り策も見出せていませんが、隣近所お互い支えあって健康で明るく安心して暮らせる地域を目指そうと奮闘合っています。

自治振興会紹介

